

かみまち

農業委員会だより

加美町農業委員会

加美町字長檀75番地2 (☎ 67-5411)

第13号

平成25年11月1日発行



「うんざいよ・とっさいよ!」「わたしのおいも大きい
よ」「ほへのほまっやあっきいぞ!」「さつまいも畑は子どもた
ちの笑顔と歓声でいっぱいになりました。」

＝読者の皆さまも園みやさき園はつまいも掘りよ!＝

複雑な思いの稔りの秋

会長職務代理 三浦 泉

記録的な猛暑、今までに経験したことのない大雨、突風や竜巻等、全国的に自然災害に見舞われた今年の夏でした。

その中で今年の米の作況指数は、やや良とのことでしたが、心配されていたとおり、全農の米の概算金の大幅な下落、国では、来年4月から消費税の増税、TPP交渉では重要5項目に対する暗雲等、手放して喜ぶことのできない「収穫の秋」だったと思います。

しかし、我々農業委員会は、どのような苦難に接しても、後継者特に子どもたちに明るい未来を与えるために、安全な食と農を守るべく努力をすべきと思います。

私事ですが、この4月から会長職務代理として務めさせていただいております。加美町農業振興にも新たな気持ちで努力しますので、よろしくお願いいたします。

平成25年度 認定農業者との意見交換会報告

農政調査委員長 今野 攻

去る8月7日、加美よつば農協

のよつば館を会場に、加美町の認定農業者並びに地域おこし協力隊の方々、加美町の今後の農業について意見交換会を開催いたしました。

農業委員会系統組織は法律により「意見の公表」や「建議」の機能を与えられており、意見交換会によって蓄積された「農業者の声」は、毎年の全国農業委員会会長大会などの「政策提案」として集約し、その多くが次年度の農業

関係予算や税制改正等に反映されていきます。

認定農業者側からは佐々木郁郎会長をはじめ25名、農業委員会側から22名、地域おこし協力隊3名、大崎農業改良普及センターから及川克徳技術次長の同席を頂き、活発な意見交換会を開催することができました。

以下に、意見・要望として出されたものを要約して報告します。

1 放射性物質による被害対策

イ 汚染牧草の一時保管事業の促進

ロ 風評被害対策として町農産物の安全性のPR

ハ 県に対し放射性物質の最終処分場の早期決定を要請

ニ 東京電力への損害賠償請求額の早期支払い要請

2 担い手・新規就農者の育成支援

イ 人・農地プランは策定促進の支援体制を整備、プランの区域設定は、集落単位から地域（複数集落）単位も考慮する等柔軟性を持たせる

ロ 認定農業者等に対する経営・栽培技術及び農機・施設整備支援の拡充

ハ 農業後継者の婚活支援に必要な関係機関・団体が持つ情報をネットワーク化し、多方面からの情報提供ができる体制整備

ニ 非農家・町外出身者を問わない就農定着支援体制整備

ホ 集落営農組合の法人化誘導と設立支援

3 農業生産振興、農村環境整備

イ 町の主要農産物販売促進とPR及び農産物のブランド化

ロ 30㍍区画未満のほ場から高性能機械に対応した大区画化へのほ場整備事業に対する支援

4 耕作放棄地・遊休農地解消対策

イ 耕作放棄地・遊休農地解消事業の取り組み促進のため、国に補助率引き上げを要請

5 TPP交渉

イ 重要5品目の関税率堅持が守られない場合は、交渉離脱を要請

ハ 有害鳥獣の駆除、被害予防及び捕獲者確保対策に必要な国・県等の予算確保要請

ニ 農産物価格下落に対するセーフティネット、生産資材、燃油の高騰対策支援を要請



イ 重要5品目の関税率堅持が守られない場合は、交渉離脱を要請
交換会の中では、沢山のご意見・ご要望を頂戴しました。農業委員会では、この貴重なご意見を今年度の「建議」として町に申出ます。

農地パトロール(利用状況調査)を実施

「耕作放棄地(遊休農地) 3.9%減・新たに3.9%」

農業委員会では、優良農地の確保と食料自給率の向上に向け、耕作放棄地の発生防止と解消、意欲ある農業者への農地集積の推進を図るために、今年度も昨年と同様に「農地パトロール・利用状況調査」を各地区ごとに実施しました。

8月7日に宮崎地区、8月8日に中新田地区、8月9日に小野田地区をパトロールし、新たな耕作放棄地(遊休農地)が発生していないか、昨年までに確認された遊休農地が適正に管理され、または、耕作を再開していないかを調査しました。

その結果、耕作の再開等により3.9%の耕作放棄地が解消され、新たに3.9%の耕作放棄地(遊休農地)が確認されました。加美町全体では251.1%の耕作放棄地(遊休農地)が確認されています。

農業委員会では、新たな耕作放棄地(遊休農地)が毎年確認されることから、耕作放棄地(遊休農地)面積を少しでも減らすために、農地法に基づく耕作の再開に向けての指導を行なっていきたいと考えています。また、加美町耕作放棄地対策協議会・各関係機関等と協力し、解消対策を協議していきたいと考えています。

加美町耕作放棄地(遊休農地)面積

地区名	箇所数	耕作放棄面積 (ha)
中新田地区	247	18.2
小野田地区	154	216.4
宮崎地区	165	16.8
合計	566	251.4

※ 小野田地区に国営やくらい山麓パイロット事業分含む

報告

フォーラム参加と自主研修を実施

8月29日(木)宮城県名取市で開催された、平成25年度東北・北海道農業活性化フォーラムに参加し、翌30日(金)には山形県天童市農業委員会にて耕作放棄地解消について研修会を開催しました。

加美町農業委員会

研修会に参加して

中新田地区 千葉連悦

園地1408畝、畑200畝で水田と樹園地がほぼ同じくらいである。

今年の東北・北海道農業活性化フォーラムは宮城県が開催県で、名取市文化会館を会場に盛大に開催された。一六〇〇名もの参加者があり、県内参加者は視聴覚ホールでスクリーンを見ながらの参加となったが、各参加者からは例年にも増して真剣さがうかがえた。終了後、明日の研修場所である、山形県天童市へと向かった。

天童市農業委員会は、平成20年度に耕作放棄地発生防止解消活動が認められ、農林水産大臣賞を受賞した素晴らしい取り組みを行なっている。

天童市の農業生産額は120億で、80億が果樹、そのうち40億がさくらんぼである。稲作は20億、畜産が10億で、耕作面積は水田が1430畝、樹園地1408畝、畑200畝で水田と樹園地がほぼ同じくらいである。

そのような天童市が平成9年から平成24年までに行った耕作放棄地解消面積は約28畝。取り組みの流れは、放棄されている農地を地元農業委員が斡旋活動をして受け手を見つけ契約するというもので、これは加美町と同じやり方であるが、調査に当たっては、地域の農業関係団体長や農業関係者が多数参加して行い、調査と並行して農家から意向調査アンケートを取るなど地域を巻き込んで行っているという点で大きく異なっている。

加美町農業委員会でも、年1回農地パトロールを行い、耕作放棄地の解消実績も11畝を超えているが、広く地域を巻き込み、耕作放棄地を地域の問題として考える天童市の取り組みは、今後の活動に大いに参考になった。

知っていますか？ 農業者年金

◆加入資格

国民年金に加入している60歳未満の人で、年間60日以上農業に従事する方

◆保険料

月額2万円を基本に最高6万7千円まで千円単位で自由に決められます。

◆80歳までの保証付き

年金は亡くなるまで受け取れる終身年金で、仮に80歳前に亡くなった場合は、死亡一時金として遺族が受け取れます。

◆税制面のメリット

保険料は全額社会保険料控除の対象になります。

◆一定の要件を満たせば保険料の助成（政策支援）が受けられます

※詳しくは、農業委員会（☎67-5411）まで

農活雑感

小野田地区

伊藤勇悦

今年も異常気象でした。涼しい7月の後に長く暑い暑さが続き、夏バテして

いるうちに9月がきました。関西や中国地方では、今までに経験したことのない大雨、関東地方では、強風や竜巻、ゲリラ豪雨で大被害を受けました。

今年の稲作は平年作とか？無事に稲刈りを終えるまで、台風や長雨は避けて通りますように…。豊作で稔りの秋を迎えたいと祈ります。

そしてこの秋もう一つ気になるのがTPP交渉の行方。交渉参加国の閣僚らと意見交換し農林水産物重要5品目などを関税撤廃から除外するよう求めているが、はたして？我々農家としては生活を守るためにもTPP反対運動を呼びかけているところです。

女性農業委員が綴る

つれづれだより

この夏に畜産農家の女性達の集会有りました。

7月に「モーモー母ちゃん」の全国集会在宮崎県都城市で開催され、宮城県から15名が参加しました。今回で7回目この大会は、回を重ねる度に拡大し、いつのまにか畜産農家では有名な会になりました。

牛を飼いながら自分の人生を切り開き、豊かにくらしていく。自分の時間と自分のお金で自主的に行動する。他にはない、参加した一人ひとりが主人公という集会です。

宮崎大会は、口蹄疫の発生から振り返り、感染被害の中心で、牛の殺処分などの映像も多く報道された西都市長の講演に始まり、女性獣医師による分娩の話で、私達を胸いっぱいしてくれました。

そして、お腹をいっぱいにくれたのは、夜の交流会で出されたA5-11の宮崎牛でした。私達宮城県団は、「大漁唄い込み」の唄と踊りを披露するともに、4年後の宮城全国共進会の開催を大いにPRして来ました。

また、8月下旬には、東京中野サンプラザで開催された中央畜産会「いきいきネットワーク」の大会に参加して来ました。これは、牛・豚・鶏の全畜種の女性の集まりで、宮城からは6名が参加しました。農水省の原田部長外多くの方々の話を直接聞けるというのもこの大会の魅力の一つです。いつも勉強不足で「自分に残念」な気持ちで帰って来ますが、このような女性達と交流できる場に自分が参加できることを大変ありがたく思っています。

＝ 小 山 京 子 ＝

全国農業新聞購読のお願い

週刊

金曜日発行（月600円 年間7,200円）

- ◆ 週刊紙の特性を生かして、様々な問題をじっくり・鋭く・分かりやすく
- ◆ 地方発の身近な話題が「みやぎ版」・「東北版」に掲載

お問い合わせ：農業委員会事務局（☎67-5411）

編集委員
委員長
副委員長

板垣文一
近田利樹
尾山明美
尾出弘子
澁谷幸悦
小山京子